

# Pro Tools M-Powered 7.1.1 on Macintosh

---

## はじめに

この書類には、Digidesign が推奨する Mac OS X のバージョンが起動する Macintosh システム上で動作する Pro Tools M-Powered 7.1.1 に関するユーザー・ガイドの訂正事項、互換情報、既知の問題点等が記載されています。

---

## Pro Tools 7.1.1 の新機能

Pro Tools M-Powered 7.1.1 の新機能は以下のとおりです：


新規トラック作成時のデフォルト・トラック・タイムベース

[新規トラック] コマンドで新しいトラックを作成すると、デフォルトのトラック・タイムベース（サンプルまたはティック）は、[新規トラック] ダイアログのトラックに対して、最後に使用したタイムベースに設定されます。

また、[インポート]>[オーディオをトラックへ] コマンド、またはオーディオ・ファイルをタイムラインにドラッグして新規トラックを作成すると、デフォルトのタイムベース（サンプルもしくはティック）は前回のトラック作成時に選択した物と同一になります。唯一の例外は、ティックベースのファイル・フォーマット（ACID 及び REX ファイルなど）であり、これらをインポートしてオーディオトラックを作成するとデフォルトのタイムベースはティックとなります。


同一のコンピュータ上における Pro Tools LE 及び M-Powered の混在をサポート

Digidesign により推奨されるコンピュータであれば、Pro Tools LE 7.1.1 及び Pro Tools M-Powered 7.1.1 の混在が可能となりました。

 ソフトウェアの混在は、Pro Tools LE 及び M-Powered のバージョンが同一である場合のみサポートされます。

Pro Tools LE 及び M-Powered を混在するには：

- 1 製品に同梱されるスタートアップ・ガイドに従って、Pro Tools LE または M-Powered をインストールします。
- 2 Pro Tools スタートアップ・ガイドに従い、もう一方の Pro Tools システムをインストールします。

 インストールが完了すると、既存の Pro Tools のセッション・ファイルのアイコンは、最後にインストールされた Pro Tools システムのアイコンに変更されます。

---

## Pro Tools のアンインストール

Pro Tools 7.1.1 から、Pro Tools のアンインストール方法が変更されました。現在、Pro Tools には、システムから Pro Tools を削除するための、独立したアンインストーラが収められています。

コンピュータから Pro Tools software を削除する場合は、この Pro Tools アンインストーラを使用します。このアプリケーションは、Pro Tools インストーラ・ディスクのルート・レベル、または Applications/Digidesign/Pro Tools/Uninstallers folder (Pro Tools 7.1.1 のインストール後) に収められています。

Pro Tools をコンピュータから削除するには：

- 1 ProTools がインストールされたアカウントに管理者権限でログインしていることを確認します。Mac OS X の管理者権限に関する詳細は、OS X のマニュアルをお読みください。

- 2 Pro Tools インストーラ・ディスクのルート・レベル、または /Applications/Digidesign/Pro Tools/Uninstallers folder ( Pro Tools 7.1.1 のインストール後 ) Uninstall Pro Tools アプリケーション・アイコンをダブルクリックします。
- 3 画面に表示される指示に従って、Pro Tools をアンインストールします。
- 4 管理者のパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
- 5 完了したら、アンインストーラを終了します。

---

## 互換性

Digidesign では、Digidesign が動作確認を行ったハードウェア及びソフトウェア環境のみを互換 / 対応情報として提供しています。動作確認済みのコンピュータ、オペレーティング・システム、及びサードパーティ機器等に関する最新情報は、Digidesign の Web サイト (<http://www.digidesign.co.jp/japan/compato/index.html>) でご確認ください。

Mbox 及び Mbox 2、または他の USB オーディオ機器を、右側の USB ポートへ接続しないでください。(Item #74692)

MacBook Pro の USB アーキテクチャの問題のため、Digidesign, M-Audio またはサードパーティ製 USB オーディオ機器は、左側の USB ポート ( 電源アダプタ・ケーブル用ポートの隣 ) のみでサポートされています。オーディオ・インタラプトやサンプル落ちを引き起こす可能性があるため、上記の機器は右側のポートへ接続しないでください。ただし、iLok に関しては、右側ポートでの使用がサポートされています。

### データベース・ファイルの互換性

Pro Tools 7.1.1 は新しい Digidesign データベースのファイル形式を必要とします。既に存在するデータベース・ファイルは、Pro Tools 7.1.1 の初回起動時に削除されます。検索速度を上げるために、使用されているドライブを再インデックスします。

Pro Tools はスリープ・モードをサポートしません。

システム環境設定から省エネルギー設定を開き、スリープ設定タブ上、全てのスリープ関連機能を使用停止に設定します。“コンピュータがスリープするまでの静止している時間”を“しない”に設定してください。また Pro Tools の使用時は、手動でスリープモードへは移行しないでください。

F9, F10, そして F11 キーを Pro Tools で使う。(Item #39985)

Mac OS X 10.4 及びファンクション・キーへの Expose デフォルト設定のため、F9、F10、そして F11 キーは Pro Tools では正常に動作しません。Pro Tools でこれらのキーを使用するには、Expose のデフォルトの設定を変更する必要があります。

FireWire デバイス使用時にハードウェアとのコミュニケーションが断たれる場合があります。(Item #55312)

Pro Tools を使用中に FireWire デバイスの接続を外すと、Pro Tools はそのデバイスを再認識できなくなります。この場合、ダイアログが出現し、Pro Tools を一度終了して上でインターフェイスを再接続するよう促されます。Pro Tools を終了する前にセッションをセーブできます。( M-Audio の FireWire デバイスの電源を切り切りする際の手順に関しましては、付属のマニュアルに従ってください。)

2 台以上の同名の FireWire ボリュームをマウントした際の不具合 (Item #44223)

2 台以上の同名 FireWire ボリュームをマウントした状態で、同名の 2 台目のドライブへセッション・データを保存した後、このセッション・データのエイリアス・ファイルをデスクトップに作成し、Pro Tools 上からこのエイリアスを開こうとした際には Pro Tools アプリケーションがクラッシュします。この問題を避けるため、複数の Firewire ドライブをマウントする場合には、必ず各ドライブに対して別々の名称付けを行います。

---

## 確認されている問題点

ここでは、Pro Tools M-Powered の使用時に生じる問題点とその回避方法について記載しています。

トランスポートの動作中にモニタの明るさを調整すると、エラーが起きる可能性があります。(Item #77237)

設計上の制限のため、Pro Tools のトランスポートが動作している間は、MacBook Pro モニタの明るさを調整しないでください。トランスポートが停止して、エラーが起こる可能性があります。Digidesign は、トランスポートの停止中にモニタ調整を行うことを推奨します。

Mbox 2 と M-Audio 製の Fast Track Pro に関するデバイス・ドライバのコンフリクト (Item #72780)

Mac OS X で Pro Tools LE を起動する際、Pro Tools LE と Pro Tools M-Powered が混在しており、M-Powered のデバイスの電源が入っていると、Pro Tools LE が起動に失敗する事があります。この問題が発生した場合は、M-Powered のデバイスの電源を切り、接続を外した状態で Pro Tools LE を起動してください。

インストゥルメント・トラックや Aux 入力にソフトウェア・インストゥルメントをインサートしても音が出ない。(Item #65797)

ソフトウェア・インストゥルメントによっては、音も鳴らず、再生もしないものがあります。これが起こった場合は、ハードウェア・インプットをインストゥルメント・トラックまたは Aux インプットに、MIDI アウトプットをインストゥルメント・トラックへ手動でアサインします。

Delta ドライバ・コントロールパネルは初期設定では “ No Audio Output ” に設定されます。(Item #60160)

Delta Driver コントロールパネルでは、初期設定で、オーディオ出力がなしに設定されていますが、これは出力フェーダーが “ -infinity ” に設定されているためです。ボリュームはマニュアルで変更する必要があります。

QuickTime がインストールされていない状態で MP3 もしくは MP4 ファイルをインポートする。(Item #62994)

QuickTime が存在しないシステムで、Pro Tools の使用後に QuickTime をインストールされると、Pro Tools が QuickTime のファイルを不明なファイルとして索引する場合があります。これらファイルは、QuickTime がインストールされた後も不明なファイルとして残ります。この問題が発生した場合は Digidesign Database ファイルを削除するか、もしくは QT ファイルで不明なファイルとなっている物を選択し、選択項目の Database をアップデートしてください。

反対に、QuickTime が存在するシステムにて Pro Tools が使用され、その後に QuickTime がアンインストールされると、QuickTime ファイルが Pro Tools には読み取りできないファイルとして索引される事があります。この問題が発生した場合、全てのデータベース・ファイルを削除して、再度実行してください。

G5 のパフォーマンスを最適化する (Item #63888)

OSX 10.4 では、Pro Tools のパフォーマンスを最適化するために、スリープタブ上の “ 可能な場合はハードディスクをスリープさせる ” 設定は切ってください。

## AudioSuite とリージョン・グループ (Item #64410)

オーディオ・ファイルとリージョン・グループでは、AudioSuite プラグインの処理がわずかに異なります。オーディオに関しては、“リージョンリスト参照”を選択して、“プレイリストに使用”を選択すると、AudioSuite プロセスがセッション内に現れるオーディオ・ファイルの全コピーへ適用されます。しかし、リージョン・グループを選択中に、ターゲットが AudioSuite プラグイン・ウィンドウ内の“リージョンリスト参照”にセットされていると、Pro Tools はリージョン・グループをプロセス可能なオーディオと認識せず、“オーディオが選択されていません”というエラーが現れます。これは、実際にトラックの中で使用されるまで、リージョン・グループが“オーディオ”ユニットとして認識されないために生じます。

瞬時にセッション内にあるすべてのリージョン・グループのコピーに AudioSuite を適用するには、下記の通りにします。

- 1 プロセスするリージョン・グループを選択します。
- 2 リージョン・メニューから [すべてのグループ解除] を選択します。グループ内の全要素が選択されたままの状態になります。
- 3 AudioSuite プロセスを実行します。
- 4 リージョン・メニューから [再グループ] を選択します。

プロンプトが表示されたら、セッション内のリージョン・グループの全コピーへ AudioSuite を適用する場合は [修正] を選択し、選択されたリージョン・グループのみに適用する場合は [コピー] を選択します。

## Pro Tools 起動中における iTunes での CD 作成 (Item #55192)

iTunes での CD 作成時に Pro Tools が起動していると、Pro Tools がクラッシュすることがあります。iTune で CD を作成する前には必ず Pro Tools を終了してください。

セッションのサンプルレートを変更すると、セッションが通常より遅い、あるいは速いスピードで再生する。  
(Item #56697)

M-Audio コントロールパネルからセッションのサンプルレートを変更すると、オーディオが不適切なスピードでプレイバックされます。従って、その後はデータを録音できなくなります。セッションを作成する前に、M-Audio コントロールパネルでサンプルレートを設定し、それ以降は変更しないでください。

以前のバージョンの Pro Tools で作成されたセッション・ファイルを開くと見つからないファイルがでます。  
(Item #37572)

以前のバージョンの Pro Tools で作成されたセッション・ファイルを開くと、いくつかのファイルが見つからないと表示されます。この場合、再リンクウィンドウにて「ファイル名」と「長さ」によって再リンクできます。「フォーマットの一致」ではリンクが見つからない場合があります。

Pro Tools 7 で保存したセッション・データを、それ以前のバージョンの Pro Tools アプリケーション上で更新した場合、Pro Tools 7.x 特有の情報が失われる (Item #49923)

Pro Tools 7.x セッションを 5.1-->6.9 フォーマットで保存して、以前のバージョンの Pro Tools を使用してセッションを開くと、下位フォーマットのみが維持されます。例えば、Pro Tools 7.x セッションを Pro Tools 5.1-->6.9 フォーマットで保存してから、Pro Tools 6.9 でセッションを開くと、インストゥルメント・トラックは MIDI トラックと Aux インプット・トラックに分割されます。互換性とセッション移行に関する詳細は、*Pro Tools リファレンス・ガイド*をお読みください。

## DigiBase

Pro Tools から QuickTime DV ファイルへの再リンク不可

再リンクのプロセスでは、オーディオを含まない DV フォーマット (.dv) の QuickTime ファイルを見つけることができません。それらのファイルが元の場所から移動してしまった場合は、再度セッションへ手動でインポートする必要があります。

## プラグイン

SurroundScope プラグインにグラフィカル・アーティファクトが表示される。(Item #73428)

Pro Tools 7.1.1 とともにインストールされるバージョンの SurroundScope プラグインのメイン・ディスプレイには、グラフィカル・アーティファクトが表示されます。

この問題を修正したアップデート・バージョンが、近い将来に予定されています。Surround Scope をアップデートするための、新しい無償 DigiRack Signal Tools プラグインは、Digidesign のウェブ・サイト ( [www.digidesign.com](http://www.digidesign.com) ) からダウンロードできます。

### 7.1.1 対応プラグイン及び追加オプション・ソフトウェアのデモ・モード

Digidesign 7.1.1 プラグイン及び Pro Tools 7.1.1 追加オプション・ソフトウェアには、期間限定のデモ版は含まれません。その代わり、これらプラグイン及び追加オプションのデモ版を使用するには、iLokUSB キー及びデモの iLok ライセンスが必要です。デモ・ライセンスの取得を希望される際は、Digidesign ウェブサイト ( [www.digidesign.com](http://www.digidesign.com) ) の、其々の製品ページにて Demo ボタンをクリックしてください。

### ReWire を使用する際のシステムリソースの保護 (Item #43521)

Pro Tools のセッションで ReWire ( 特にシングル・プロセッサのコンピュータにおいては ) を使用する際、RTAS の負荷を増加させる事によって ( RTAS plug-ins を増やす、及び low instance counts の RTAS plug-ins を増やす事により )、CPU に負荷を与え、パフォーマンス・エラーを引き起こす恐れがあります。最大のパフォーマンスを実現させるには、plug-in のトラックをオーディオ録音し使用されている plug-ins を無効にする事により、CPU リソースを保護して下さい。

### RTAS Plug-In の負荷の大きいセッションでのシステム・リソースの保護 (Item #43522)

シングル・プロセッサのコンピュータにおいて RTAS の負荷を増加させる事によって ( RTAS plug-ins を増やす、及び low instance counts の RTAS plug-ins を増やす事により )、CPU に負荷を与え、パフォーマンス・エラーを引き起こす恐れがあります。最大のパフォーマンスを実現させるには、plug-in のトラックをオーディオ録音し使用されている plug-ins を無効にする事により、CPU リソースを保護してします。

### TDM と M-Powered ( もしくは LE ) システム間のプラグインを伴ったセッションの転送 (Item #37641)

TDM と M-Powered ( もしくは LE ) システム間でセッションを転送する場合、プラグイン設定は、そのセッションの Plug-In Settings ( プラグイン設定 ) フォルダへ手動でコピーします。これにより正しいプラグイン・プリセット名が復元されます。

## MIDI

### MIDI システム・エクスクルーシブ・データを録音すると直ぐに DAE エラーが発生します (Item #59626)

Pro Tools を AudioPhile192 で使用中に MIDI Sysex ファイルを送信すると DAE エラーが発生します。この問題を回避するには、ハードウェア・バッファサイズを増加させるか、もしくは伝送する際のバンクを減らす必要があります。

ハードウェア・バッファサイズが 128 に設定されており、MIDI ビートクロックが有効な状態でオーディオもしくは MIDI の録音を行うと DAE エラーが頻繁に発生する事があります。(Item #56234)

ハードウェア・バッファサイズが 128 に設定されており、MIDI ビートクロックが有効な状態でオーディオもしくは MIDI の録音もしくは再生を行うと DAE エラーが頻繁に発生する事があります。このエラーの原因として低い CPU パワーもしくはメモリの容量の小ささが考えられます。この状況で DAE エラーが発生する場合はハードウェア・バッファサイズを増加させてください。

### M-Audio のホストケーブルの不具合による MIDI データ転送問題 (Item #59667)

Pro Tools が MIDI データを断続的もしくは全く入出力できない場合は、先ずホストケーブルの接続に問題が無いかが調べてください。

再生時にユニットのボリュームノブの調整を行う事により MIDI のパフォーマンスが左右される問題 (FireWire 1814 限定) (Item #58159)

再生時に M-Audio FireWire 1814 のボリュームレベルを変更すると、セッションの MIDI 情報をもたつかせる事があります。この問題を回避するには、Pro Tools を終了し、M-Audio コントロールパネルを起動して、出力レベルを 0 dB もしくは必要に応じたレベルに設定し、Link ボタンを解除する必要があります。Pro Tools 上ではマスターフェーダー（もしくはそれぞれのトラックのフェーダー）が出力のコントロールとなります。

## コントロール・サーフィス

Command8 のチャンネル・ビューにセンド F-J が表示されない。(Item #70342)

Command8 のチャンネル・ビューを使用して、単一の Pro Tools チャンネル上のセンドを表示しようとする、センドの A-E しか表示されません。Command8 のセンド・スイッチを押してセンド・ビューへ切り替え、[Shift/Add] スイッチを押しながら対応するセンド・ポジション・スイッチ (A=F, B=G, C=H, D=I, E=J) を押します。

## ビデオ

管理者権限の無いユーザーが、QuickTime ムービーを含むセッションを開いた時に、そのセッションを再生できない問題 (Item #47053)

もし管理者権限がなく、Quick Time への承認が無いユーザーが、QuickTime ムービー付きのセッションを開いた場合は、「Quick Time ムービー・ファイルが無く再リンクしますか」というダイアログが表示されます。再リンクウィンドウでは、そのムービー・ファイルを見つけ再リンクしたかのように見えますが、依然再生することはできません。再生できるようにするには、Quick Time ファイルへの承認をすることになります。

Pro Tools の起動中に DV 機器を接続、あるいは取り外した際に生じる DAE エラー (Item #35034)

Pro Tools の起動時に DV 機器を接続すると、-6090、-6093、あるいは -6097 DAE エラーの発生、または Pro Tools が予期せぬ理由で終了する可能性があります。これを回避するためには、すべての DV 機器とその他の FireWire デバイスを Pro Tools の起動前に接続する必要があります。

---

## Apple オーディオ MIDI 設定 (AMS)

Pro Tools の再生中に AMS の設定を変更しない。

Pro Tools LE でセッションを再生中に AMS の設定変更を行うと、問題を生じる可能性があります。AMS を編集する必要がある場合は、まず Pro Tools を停止してください。AMS の設定を変える場合は、最初に Pro Tools のプレイバックを停止してください。Pro Tools 起動後に [設定]>[オーディオ MIDI 設定を編集...] を選択し、AMS を起動します。

---

## エラー・メッセージ

再生中の -6031 エラー (Item #32637)

複雑な MIDI やオートメーション・データを持つセッションを再生中に -6031 というエラーが生じたら、再生を一旦止め、セッションを保存し閉じてください。そして Pro Tools を終了してから再起動し、そのセッションを再び開いて作業してください。

-6086 エラー：オペレーティング・システムのインターラプトが長すぎます (Operating System Held Off Interrupts for Too Long; Item #15809)

-6086 エラーが頻繁に生じる場合は、ハードウェア・バッファサイズを増やしてください。

-6093 エラー：オペレーティング・システムのインターラプトが長すぎます (Operating System Held Off Interrupts for Too Long; Item #46779)

-6093 エラーが頻繁に生じる場合は、ハードウェア・バッファサイズを増やしてください。

FireWire1814 を使用し、複数のトラックを同時録音する際に発生するエラー (-9073) (Item #59478)

M-Powered FW1814 を特定の Macintosh に接続し、複数のトラックを同時録音するとエラー (-9073) が発生する事があります。ハードウェア・バッファサイズを 256 に設定するか、もしくは DAE バッファサイズを 4 に設定する事によりこの問題を回避する事ができます。

FireWire Drive 上に録音している場合、あるいは単一ファイルのファイル・サイズが 2 GB に到達した場合の DAE Error -9073 (Item #42611)

FireWire ドライブへ録音中、2 GB のファイル・リミットに到達した時、本来表示されるべき “ Recording has been terminated because a disk is full ” というディスク上に空きスペースがなくなったため録音を継続できない旨のアラートの代わりに DAE 9073 が表示されます。このエラーは悪いものではなく、データの損失を示すわけでもハードドライブに問題があるわけでもありません。

FireWire Drive に録音している場合、あるいは単一ファイルのファイル・サイズが 2 GB に到達した場合、これ等が何れも該当しない DAE Error -9073

-9073 エラーが生じた場合は、Digidesign の Web サイト ( [www.digidesign.com](http://www.digidesign.com) ) のアンサーベースを参考に、可能性のある原因の追求とその解決を計ってください。

DAE Error -9128

サンプルレートが高く ( 96kHz 以上 )、また複雑なオートメーションを伴う、もしくは多数の RTAS プラグインが使用されているセッションを再生中に、この -9128 エラーが生じる場合は、ハードウェア・バッファサイズを 512 以上に設定すると回避できる場合があります。

- または -

長時間のレコーディングで 9128 が生じた場合、[ 設定 ] > [ プレイバックエンジン ] で CPU 使用限度を 99% に設定してください。

DAE Error -9131

Pro Tools M-Powered では、UNIX File System ( UFS ) フォーマット・ドライブへの録音 / 再生はできません。

DAE Error -9132

ハードウェア・バッファサイズ設定を最高値に設定しているにも関わらず、[ ディスクヘバウンズ ] 中に -9132 エラーが生じたら、セッション上に録音用のトラックを作成し、目的のトラックから内部バスを適切にアサインして、ディスクに録音してみてください。

DAE Error -9735

Pro Tools がタイムラインの終点に到達した際、またはその論理的限界に達した場合、Pro Tools を最大タイム・リミットより長く継続して再生していると、このエラーが生じます。Pro Tools の最大タイムリミットは、セッションのサンプルレートに依存します。詳細は *Pro Tools* リファレンス・ガイドを参照してください。

